

これは、労働者の権利侵害に関する唯一の包括的な年次調査である ITUC グローバル権利指数の第 13 版です。

今年の指数は、政府や企業の退行的な政策から一般労働者の権利と利益を守るために存在するグローバルな労働運動が直面する、増大する課題を浮き彫りにしています。

2026年の最も衝撃的なデータのポイントとしては、言論と集会の自由の侵害が過去 1 年間で 5 ポイント上昇、労働者に対する暴力的な攻撃が 6 ポイント上昇、市民的自由への攻撃が 3 ポイント上昇したことが挙げられます。

これらの指標の急激な上昇は、労働組合への迫害がますます多くの国で常態化していることを示しています。

私たちは、労働者を監視、懲戒、沈黙させるための手段として、新たなテクノロジーがますます多く利用されているのを目にしています。また、労働法を改正または導入する前に、誠実に労働組合と協議する政府も減少しています。

今年の結果は、国際労働組合総連合(ITUC)が指摘する、民主主義の原則が世界的に侵食されているという見解を裏付けるものです。

これは、富裕層が資金を提供し、極右や権威主義的な指導者によって実行される「民主主義に対する億万長者のクーデター」と言えるでしょう。

利益が蓄積され、富裕税が効果を発揮しない中で、このクーデターは生活水準の悪化を招きます。民主主義の基盤となるべき労働者の声は抑圧され、民主主義を蝕む少数の人々の手に富と権力がさらに集中しています。

労働者の権利侵害の実態を浮き彫りにする2026年版インデックスは、権力者たちが隠蔽しようとするパターン、すなわち労働者、労働組合、団体交渉への攻撃を通じた民主主義の組織的な弱体化を露呈しています。

ストライキの弾圧から法的保護の侵害、そして労働組合の犯罪化に至るまで、これらは単なる孤立した事例ではなく、異議を封じ込め、不平等を固定化するための広範な戦略の一環です。

労働運動は、集団行動と連帯を基盤とする世界最大の民主主義勢力であり続けています。民主主義制度が継続的な圧力にさらされている今、労働組合は職場における権利を守るだけでなく、民主主義そのものをも守っています。

労働者は共に組織化し、交渉し、運動することで、権利と自由の侵害を食い止め、すべての人にとってより公正で包摂的、そして民主的な未来を築く力を持っています。

○民主主義のための闘い

2026年国際労働組合総連合(ITUC)世界権利指数は、私たちが以前から認識していた事実、すなわち、民主主義に対する億万長者によるクーデターに直面していることを改めて強調しています。

一般市民が最低限の生活水準と公正な労働条件を維持するために頼りにしている自由と権利は、私たち全員を犠牲にして富と権力の蓄積に固執するごく少数の勢力によって組織的に攻撃されています。

世界中の億万長者は、権力を集中させ、権利を排除するために、多くの場合右派または極右の政治指導者と結託しています。

このクーデターにおいて、労働組合は標的となっています。なぜなら、労働組合が代表する労働者は民主主義体制の基盤を形成しているからです。

労働者とその労働組合は、自らが支える経済の最前線で権利のために闘い、民主主義、繁栄、そして自由のまさに柱を守っています。

戦術は様々ですが、その背後にいる者たちの目的は共通しています。それは、民主主義が労働者のために機能するのを阻止することです。

多国間組織の弱体化から、苦勞して勝ち取った権利と自由の後退まで、これらの戦略は権力を強化し、労働者の声を封じ込めるために仕込まれています。

今年のインデックスに示された侵害行為と後退的な傾向は、2026年に労働者と労働組合が民主主義のために、そして最も重要なもの、すなわち私たちの権利、安全、生活、そして何よりも連帯のために闘う理由を明確に示しています。

労働者が民主主義に対するこのクーデターを克服し、少数の権力者だけでなく、すべての人にとってより良い未来を保障できるのは、連帯を通してのみです。